

第6回高齢社会対策大綱の策定のための検討会 事前資料を拝見して感じたポイント

・高齢者への移動支援

-通院や買い物など生存レベルのものから、趣味や交流を目的としたものまで、どこまで移動支援として行うべきなのか？

全部をカバーできるのがベスト、特に社会活動や交流を研究している立場からは趣味や交流を諦めることの弊害を考えるとひろく支援する必要があると考えるが…

-多様な連携で外出を支えるとあるが、支援が必要なエリアほどに社会資源が乏しい地域内で完結するのではなく、他からも力をつなぐことを可能にするコーディネーターや仕組みの必要性を併せて提示していく必要

・全体を通じて

-健康寿命、健康、活躍

この言葉のもつイメージが、身体や心が衰えていく、役割がなくなっていく人の生きづらさを生んでいる可能性も否定できない

大綱では、共生社会などという抽象的な言葉だけではなく、その時々状況に応じた健康、活躍の姿があることを明記した方がよい

-デジタル活用推進についても、医療や介護のサイドだけではなく、高齢当事者の自己選択や自己決定を支援する手段という視点も盛り込んだ方がよいように考える

-現役世代の学び、セカンドキャリアだけではなく、人生100年をいかに生きるかという学びを多様な機関、例えば企業と大学といった連携で働きかけることも重要と考える